

6 GAP 認証農場の事例

<No. 1> 北見市留辺蘂 (有) 森谷ファーム

1 経営概要

- ・経営面積 (ha) : 40ha
- ・作付品目と面積

たまねぎ	てんさい	菜豆 (白花豆・紫花豆・大福豆)	秋まき小麦	春まき小麦
21.0ha	8.0ha	5.0ha	4.0ha	2.0ha

- ・作業員数 : 役員 2 名、雇用労働 4 名 (年雇 1 名、臨時 3 名)

2 GAP 認証の取得状況

(1) GAP 認証取得に取り組んだ経緯

- ・取引先からの要望により、GLOBALG.A.P.の団体認証を平成 28 年 1 月に取得。
- ・平成 27 年から約 1 年を準備期間とした。

(2) 認証を取得した時期・GAPの種類・認証品目

- ・認証取得の時期 : 平成 28 年 1 月
- ・GAPの種類、認証品目 : GLOBALG.A.P.(青果物)、たまねぎ

3 GAPの取組にかかった経費

項目	金額	備考
農業保管庫	300,000 円	JR コンテナを購入し鍵、換気口、電灯をつけた
救急箱	1,000 円未満	絆創膏、包帯などは 100 円ショップで購入した
消火器	約 14,000 円	2~3 台
倉庫内LEDライト	62,000 円	LEDライトへ切り替え 飛散防止フィルムの設置
残留農薬分析	約 20,000 円	取引先が実施
水質分析	—	(水道水を使用)
廃棄物の処理	—	両親の世代から産廃などで随時処分していた
JGAP指導員資格	—	現在は無し(今後社員にも取得させたい)
応急手当の講習	無料	北見市消防開催の普通救命講習受講(3名)

4 GAP 認証取得までのスケジュール

平成 27 年 1 月 ~	販売先からの要望で GLOBALG.A.P.の取組開始 整理整頓・書類整備・自己点検
平成 27 年 11 月 ~	外部審査受審(初回審査)
12 月	不適合項目の是正報告
平成 28 年 1 月 ~	GLOBALG.A.P.認証取得

5 GAP 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P 導入による改善効果

(1) G A P に取り組んで最も良かったと感じること

- ・ 整理整頓され、探す手間など無駄な仕事が減った。
- ・ 雇用のつながりがあった（安心して働いてもらえる）。
- ・ 第三者から見られることで、後回しにしていた事を強制的にやれる。
- ・ 取り組んだことでやらなければいけないことが明確になった。
- ・ 経営改善のツールである。

(2) G A P 導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	今のところわからないが、いずれ経営に表れてくれるのでは・・
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーム数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	在庫確認しているので無駄な購入がなくなった
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	点検や記録により気をつけて使うようになった
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	作業が効率的になったので無駄な人員がいない
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	道具は元に戻すようになり無駄な購入がなくなった
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	仕事が明確になり無駄な労働時間が減った
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	責任者を設けることで意識が変わった
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	GAP認証で人が安心して働きに来てくれた

7 G A P の取組で大変だと感じる点

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・ アプリや書類の整備など、まだまだ模索中。スタッフも含め使いやすいものを探している。

8 今後の方向性

- ・ G A P は経営改善に必要なツール。余計なコスト、やらなきゃいけないことを強制的に第三者に見てもらえることで、行動に移すことができる。

9 これから国際水準 G A P の取得を目指す農業者へ

- ・ 持続可能な農業を続けるには必要なツール。それぞれの経営形態にあった G A P 取得を目指してほしい。

【調査者：網走農業改良普及センター本所】

<No. 2> 訓子府町 ホクレン訓子府実証農場

1 経営概要

- ・経営面積 (ha) : 12ha
- ・作付品目と面積

ばれいしょ	秋まき小麦	てんさい	大豆	その他(露地)	ほうれんそう・冬野菜
2.3ha	2.3ha	3.0ha	2.1ha	1.5ha	ハウス2棟

※ほうれんそう・冬野菜(リーフレタス、こまつな、みずな、しゅんぎく)は試験栽培

- ・作業数: 職員6名+雇用労働6名

2 GAP 認証の取得状況

(1) GAP 認証取得に取り組んだ経緯

- ・GAP 認証がオリンピックの食材調達要件になるなど注目が高まり、JAグループ北海道としても畑作物GAPを推進する取組の検討が始まりつつあった。
- ・認証取得に向けた動きも加速することが予想され、実際に認証を取得しGAPの問い合わせに対応すべく知見収集するため。

(2) 認証を取得した時期・GAPの種類・認証品目

- ・認証取得の時期: 令和元年5月
- ・GAPの種類、認証品目: JGAP(青果物)、ほうれんそう

3 GAPの取組にかかった経費

項目	金額	備考
農業保管庫	—	薬品・農薬専用として販売されている保管庫 棚3段のスチール製 高さ136cm×幅88cm×奥行36cm
農業流出防止用トレイ	約10,000円	
救急箱	1,000円	従来から1セットあったが1セット増設
JGAP指導員資格	—	1名受講(北見開催)
応急手当の講習	無料	北見地区消防組合訓子府支署で普通救命講習受講(2名)
審査費用	約86,000円	審査・認証機関:北海道有機認証センター

4 GAP 認証取得までのスケジュール

平成29年12月	JGAP指導員研修受講(1名)
平成30年4月～	JGAP「管理点と適合基準」の内容習得(普及センターの指導による)
10月	自己点検の実施、審査会社への審査申し込み
平成31年2月	外部審査受審(初回審査)、不適合項目の是正報告
令和元年5月	JGAP認証取得
9月	審査会社への申し込み
12月	外部審査受審(維持審査)

5 GAP支援ソフトの利用有無 (無し)

6 GAP導入による改善効果

(1) GAPに取り組んで最も良かったと感じこと

- ・整理・整頓により、効率的な作業につながっている。

(2) GAP導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	※試験栽培のため 評価の対象外
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーン数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	導入前より量・種類共に少ない
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	機械の使用年数が少ない
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	GAPに適合した農場管理を考えるようになった
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	掲示物や教育資料により、作業者への注意喚起・情報共有の意識疎通が高まった
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	

7 GAPの取組で大変だと感じる点（下記から選択）

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・農薬在庫台帳は元々作成していたが、肥料在庫台帳は新たに作成した。
- ・リスク評価や農場のルール作成など基準書の解釈が難しい。
- ・自己点検の際に適合性を判断する基準が明確ではない。

8 今後の方向性

- ・認証農場として、農業者へホクレン広報誌などによりGAPに関する情報発信に努め、普及推進に協力したい。
- ・GAPが目指す「適切で効率的な農場管理」を追求したい。

9 これから国際水準GAPの取得を目指す農業者へ

- ・GAPに関心がある農業者には、当農場に見学に来ていただきたい。
- ・一人で悩まずに周りにはいるGAP指導員や認証農場に相談をしてほしい。

【調査者：網走農業改良普及センター本所】

<No. 3> 美幌町 渡部農場

1 経営概要

- ・ 経営面積 (ha) : 29.92ha
- ・ 作付品目と面積

にんじん	秋まき小麦	春まき小麦	てんさい
4.0ha	9.52ha	8.4ha	8.0ha

- ・ 作業員数 : 4名 (内訳) 経営主、両親、妻 (雇用労働無し)

2 GAP 認証の取得状況

(1) GAP 認証取得に取り組んだ経緯

- ・ 農協からGAP取得の依頼をされたことがきっかけ。
- ・ 平成29年7月に美幌町で開催したGAP導入セミナーに参加して取組を開始。

(2) 認証を取得した時期・GAPの種類・品目

- ・ 認証取得の時期 : 平成30年7月
- ・ GAPの種類、認証品目 : JGAP (青果物)、にんじん

3 GAPの取組にかかった経費

項目	金額(円)	備考
農薬保管庫	160,000円	物置タイプ(新品)をホームセンターで購入(換気口あり)
たい肥流出対策	30,000円	森林組合から木材チップを購入
消火器	17,000円	JAから購入
トイレ	260,000円	新品をJAから購入
救急箱	3,000円	ドラッグストアで絆創膏、包帯、頭痛薬、胃腸薬等を購入
LEDライト	1,000円	JAから購入、農薬庫に使用
農薬流出防止用トレイ	5,000円	ホームセンターで購入
土壌分析	無料	肥料メーカーで分析
残留農薬分析	10,000円	エアウォーター(株)で分析(JA経由)
水質検査	無料	保健所のホームページで検査結果を確認 町水道を使用している
応急手当の講習	無料	平成30年2月に美幌消防署で普通救命講習受講
廃棄物の処理(廃プラ)	30円/1kg	廃プラスチックを年2回JAで処理
廃棄物の処理(金属)	無料	雑品屋が回収
審査費用(初回)	約100,000円	審査員交通費・宿泊費、農場登録料を含む 維持審査は60,000円程度であった

4 GAP認証取得までのスケジュール

平成29年7月	美幌町で開催されたGAP導入セミナーに参加
平成30年1月	ASIAGAPを取得した美幌高校を視察
2月	救命講習受講、基準書の読み合わせ、小屋や車庫、農薬庫の整理
6月	自己点検
7月	外部審査(初回審査)受審、不適合項目を是正
令和元年1月~	JGAP認証取得(7月19日)
5月	自己点検に向けた整理整頓
7月	自己点検、外部審査(維持審査)受審、是正項目なしで認証

5 G A P支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P導入による改善効果

(1) G A Pに取り組んで最も良かったと感じること

- ・農薬や肥料の在庫管理がしやすくなった。
- ・ほ場内の危険、リスクを改めて確認できた。
- ・家族の病気やけが、作業リスクを考えるようになった。
- ・文字に表すことで情報を整理できた。

(2) G A P導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
		改善あり	改善無し	わからない	
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーン数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	在庫の管理がしやすくなった
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	(雇用なし)
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	栽培面積に変動なし
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	家族内で従業員講習を行うようになった
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	(雇用なし)
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	家族と話し合うようになった

7 G A Pの取組で大変だと感じる点

- 【データの管理(記帳、集計など)に手間がかかる】
- 【環境整備や施設改善が難しい】
- 【各担当責任者の育成が難しい】
- 【作業や従業員の意識・責任感が改善されない】
- 【消費者や取引業者の理解が不十分】
- 【施設改善や審査・認証に経費がかかる】

- ・G A P取得のために何から取り組めば良いのか分からず苦労したため。

8 今後の方向性

- ・個人で取り組むには負担が大きい。G A Pの普及がこれからどう進んでいくのか長い目で見たい。
- ・G A Pは一般消費者からの認知度が低い。メディア等でG A Pをアピールする方法があったのではないかと思う。

9 これから国際水準G A Pの取得を目指す農業者へ

- ・お金目当てだとG A Pは向いていない。中途半端な気持ちでは取得できない。
- ・G A Pは自分の経営を見つめ直す機会である。自分自身を改めることができるため、取り組んで損はない。

【調査者：網走農業改良普及センター美幌支所】

<No. 4> 津別町 (有) 矢作農場

1 経営概要

- ・ 経営面積 (ha) : 14.05ha
- ・ 作付品目と面積

たまねぎ	にんじん	かぼちゃ	アスパラガス	休閒緑肥
12ha	0.9ha	0.4ha	0.2ha	0.55ha

- ・ 作業員数 : 常勤 2 名、雇用労働 3 名

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・ 以前から有機 J A S を取得していたが、国の助成制度を活用できることや関係機関の協力があつたため。
- ・ 経営改善を目的に取り組んだ。

(2) 認証を取得した時期・G A P の種類・品目

- ・ 認証取得の時期 : 平成 29 年 11 月
- ・ G A P の種類、認証品目 : J G A P (青果物)、たまねぎ、にんじん、かぼちゃ、アスパラガス

3 G A P の取組にかかった経費

項目	金額	備考
農業保管庫	5,000 円未満	既存の保管庫を使用 農業吸収防止塗料を購入し保管庫の棚に自分で塗った
トイレ	150,000 円	中古を購入し倉庫の近くに設置
救急箱	10,000 円未満	絆創膏、包帯、消毒液等をドラッグストアで購入
残留農薬分析	20,000 円	分析機関 : エア・ウォーター (株)
土壌診断	2,500 円	J A を通じて分析
防油堤	10,000 円	知人の業者を通じて水槽を購入した。その後加工し製造した
掲示板	2,000 円	「火気厳禁」等の掲示板を J A で購入 (3 枚)
ヘルメット	6,000 円	J A で 2 つ購入、別途農場名を入れてもらった
廃棄物の処理	—	廃プラの回収日や雑品屋の回収で随時処分
刈払機安全作業講習	10,000 円前後	
応急手当の講習	無料	津別町消防の普通救命講習
アスパラガスの選果	20,000 円	床にシートを貼るなどした
施設改修	14,000 円	蛍光灯に飛散防止フィルムを設置 (合計 14 本分購入)
審査費用	80,000~90,000 円	審査料、審査員旅費、農場登録料を含む

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成 29 年 1 月	国の助成制度の説明会出席 (札幌)
3 月	助成制度の申請
4 月~	整理整頓、書類整備
5 月~	管理点の読み合わせ、自己点検
9 月	外部審査受審 (初回審査)、不適合項目是正報告

11月	JGAP認証取得
平成30年	自己点検
10月	外部審査受審（維持審査）、不適合項目是正報告
令和元年7月	自己点検
8月	外部審査受審（更新審査）、不適合項目是正報告
10月	JGAP認証更新取得

5 GAP支援ソフトの利用有無 (無し)

6 GAP導入による改善効果

(1) GAPに取り組んで最も良かったと感じること

- ・記帳することで、無駄なものを購入しなくなった。
- ・整理整頓により、探す手間など無駄な仕事が減った。
- ・消費者からのクレームの回数がやや減少した。
- ・取引先から安全・安心の農場だと認識されている。

(2) GAP導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	販路拡大に繋がった
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーム数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	必要な分だけ購入している
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	定期的に検査を実施している
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	適正な物だけ購入
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	掲示物等があるため説明の回数が減少した。
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	春の顔合わせ、定期的なミーティングの実施
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	毎年同じ人が来てくれる

7 GAPの取組で大変だと感じる点

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・日々の記帳が大変。一度手書きし、その後パソコンに入力している。

8 今後の方向性

- ・更に経営改善を進めていきたい。

9 これから国際水準GAPの取得を目指す農業者へ

- ・マイナスになることはない。総合的に経営改善することは必須である。認証取得をしなくても、GAPをすることは重要。

【調査者：網走農業改良普及センター美幌支所】

<No. 5> 津別町 石川農場

1 経営概要

- ・ 経営面積 (ha) : 21ha
- ・ 作付品目と面積

ばれいしょ	秋まき小麦	小豆	かぼちゃ	飼料用とうもろこし(販売用)
5.7ha	8.2ha	2.0ha	0.6ha	4.5ha

- ・ 作業員数 : 4名 (内訳) 経営主、妻、両親 (雇用労働無し)

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・ 8年前の冬、作業に向かう途中、足を骨折し2カ月入院した。どうしたら事故なく安全に作業できるかということを考え、G A Pを意識するようになった。
- ・ 6年ほど前、長男が美幌高校でA S I A G A P取得に、津別町内の矢作さんがJ G A P取得に向けて本格的に取り組み始め、自分も励みになった。

(2) 認証を取得した時期・G A Pの種類・品目

- ・ 認証取得の時期 : 平成31年1月
- ・ G A Pの種類、認証品目 : J G A P (青果物・穀物)、ばれいしょ、かぼちゃ、秋まき小麦、小豆

3 G A P の取組にかかった経費

項目	金額	備考
消火器	20,000円	2本、通販で購入
残留農薬分析	10,000円	J Aを通してホクレン農総研に依頼
はかりの検定	2,500円	2年に1回実施
ヘルメット	3,000円	通販で購入
掲示物	5,000円	「禁煙」、「整理整頓」等
選果場の動物侵入対策	1,500円	選果施設の鳥よけ、通販で購入
農薬保管庫内のトレイ	1,000円	100円ショップで購入

※有機栽培に取り組んでいることもあり、G A Pのために改めて購入したものは少ない

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成30年4月~10月	管理点と適合基準の読み合わせ(月1回程度)
11月	外部審査受審(初回審査)、不適合項目の是正報告
令和元年1月	J G A P 認証取得
9月	自己点検
10月	外部審査受審(維持審査)

5 G A P 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P 導入による改善効果

(1) G A P に取り組んで最も良かったと感じること

- ・ 金銭的メリットはない。自分のためと思ってやるしかない。自分を見つめ直す機会になっている。
- ・ 手順を考えながら仕事に取り組むようになった。
- ・ 家族の意見を聞くようになった。
- ・ 食品安全、衛生面の意識が高まった。

(2) G A P 導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
		改善あり	改善無し	わからない	
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーム数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	毒劇物を分けることによって使わなくなった
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	早めの点検を行う
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	(該当外)
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	帳簿類をまとめたことによる
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	意識の変化があった
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	話す時間が増えた
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	(該当外)
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	安全に対する意識が高まった

7 G A P の取組で大変だと感じる点（下記から選択）

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・ 有機栽培、J A の生産履歴等もあるので手間がかかる。

【消費者や取引業者の理解が不十分】

- ・ G A P に対する認知度が低い。取引業者からも特に求められない。

8 今後の方向性

- ・ 悩んでいる。
- ・ やめようとは思わない、経営改善のツールとしてとりあえず続ける。

9 これから国際水準 G A P の取得を目指す農業者へ

- ・ 金銭的メリットはない。自分のためと思ってやるしかない。

【調査者：網走農業改良普及センター美幌支所】

<No. 6> 湧別町 M農場

1 経営概要

- ・経営面積 (ha) : 19ha
- ・作付品目と面積

たまねぎ	秋まき小麦	てんさい (直播)	ブロッコリー	飼料用とうもろこし
8.3ha	7.4ha	2.0ha	0.2ha	1.1ha

- ・作業員数 : 2名 (内訳) 経営主、母 (雇用労働無し)

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・上湧別玉葱振興会青年部でG A Pについて学んでいく中で興味をもった。その後、仲間に誘われ、J G A P 認証の取得に向けて取り組み始めた。
- ・平成 28 年に取り組みを開始した。

(2) 認証を取得した時期・G A P の種類・品目

- ・認証取得の時期:平成 30 年 2 月
- ・G A P の種類、認証品目 : J G A P (青果物)、たまねぎ

3 G A P の取組にかかった経費

項目	金額	備考
農業保管庫の鍵	100 円	以前から所有していたD型ハウス内の農薬庫に取り付けた
救急箱	500 円	絆創膏、包帯などは 100 円ショップで購入した
消火器	18,000 円	10 型 A B C 消火器
残留農薬分析	20,000 円	分析機関 : キューサイ分析研究所 ※エア・ウォーター (株) に依頼したが、分析できない項目があり変更した
水質分析	8,000 円	井戸水を使用しているため紋別市浄水場で一般項目検査を実施 (保健所より価格が安く検査項目は多い)
廃棄物の処理	—	期限切れの農薬は農薬庫に保管している
フォークリフト免許	40,000 円	
応急手当の講習	無料	消防署で普通救命講習を受講
審査費用	103,447 円	初回審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、農場登録料 10,000 円、旅費 25,447 円
	90,121 円	維持審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、旅費 22,121 円

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成 28 年 6 月～	管理点と適合基準の読み合わせ
平成 30 年 1 月	自己点検
平成 30 年 1 月	外部審査受審 (初回審査) ※不適合項目 (努力項目) は維持審査前には正
平成 30 年 2 月	JGAP 認証取得
平成 30 年 7 月	外部審査受審 (維持審査)

5 G A P 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P 導入による改善効果

(1) G A P に取り組んで最も良かったと感じること

- ・まだ大きな改善効果は出てきていないが、農場運営を改めて見直すことで環境保全、労働安全、食品安全など色々な面で改善の取組を進めるきっかけとなっている。

(2) G A P 導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	共計のため販売面の改善はない
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーム数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	これから効果がでると見込まれる
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	〃
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	予防的な修理や軽微な故障の修理を行うようになったため故障は減った
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	帳票類の記帳の時間が増えた
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	

7 G A P の取組で大変だと感じる点

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・帳票類の記帳、書類整理の作業が大変である。

【施設改善や審査・認証に経費がかかる】

- ・審査・認証費用の負担が課題である。

8 今後の方向性

- ・今回 J G A P を取得したたまねぎは、個販ではなく共計であるため、新しい販路や売り上げに結びつかない。産地全体での取組が課題だと思う。

9 これから国際水準 G A P の取得を目指す農業者へ

- ・以前から農薬庫は所有しており、倉庫内の整理や廃棄物の管理をしっかりと行っていたため、大きなコストをかけることなく、またこれまで通りのやり方で J G A P 認証を取得することができた。
- ・帳票類の作成やリスク評価の実施について、他の農場の例を参考とすることができれば、取得のハードルは高くないと考えている。

【調査者：網走農業改良普及センター遠軽支所】

<No. 7> 湧別町 N農場

1 経営概要

- ・経営面積 (ha) : 31ha
- ・作付品目と面積

たまねぎ	秋まき小麦	飼料用とうもろこし	かぼちゃ(加工用)
11.5ha	11.5ha	7.0ha	1.0ha

- ・作業員数 : 3名 (内訳) 経営主、妻、母 (雇用労働無し)

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・平成 27 年 12 月に地元の青年部の勉強会で G A P について勉強会を実施し、そこで興味を持ち、G A P 認証に取り組んだ。

(2) 認証を取得した時期・G A P の種類・品目

- ・認証取得の時期 : 平成 30 年 2 月
- ・G A P の種類、認証品目 : J G A P (青果物)、たまねぎ

3 G A P の取組にかかった経費

項目	金額	備考
農業保管庫	190,000 円	J R コンテナを購入 換気口はホームセンターで 500 円で購入し取り付け 鍵は 500 円の南京錠を使用
救急箱	10,000 円	ホームセンターで箱を購入し、絆創膏などは自宅の配置薬を利用している
消火器	50,000 円	A B C 10 型 2 本 (オイル保管場・燃料保管庫) A B C 20 型 1 本 (自宅)
残留農薬分析	18,000 円	分析機関 : エア・ウォーター (株)
水質分析	無料	使用水は水道水、畑地かんがい用水のため分析不要
廃棄物の処理	100,000 円	木材やその他不要品をトラック 10 台分廃棄
フォークリフト免許	40,000 円	
応急手当の講習	無料	消防署で普通救命講習を受講
審査費用	103,447 円	初回審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、農場登録料 10,000 円、旅費 25,447 円
	90,121 円	維持審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、旅費 22,121 円

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成 28 年 3 月 ~	管理点と適合基準の読み合わせ
平成 30 年 1 月	自己点検、審査会社に申し込み 外部審査受審 (初回審査)、不適合事項の是正
平成 30 年 2 月	JGAP 認証取得
平成 30 年 7 月	外部審査受審 (維持審査)

5 G A P 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P 導入による改善効果

(1) G A P に取り組んで最も良かったと感じこと

- ・農場内の整理整頓ができたことが最も良かった。

(2) G A P 導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	共計のため
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーン数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	ムダな在庫がなくなった
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	同上
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	機械の整備は以前からしっかり行っていた
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	現在は経営主がすべての責任者となっているが、今後は分担していく
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	作業日誌を記帳し打ち合わせをしっかりと行っている
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	労働安全の効果は出ている

7 G A P の取組で大変だと感じる点

- ・特になし

8 今後のG A P の活用方法

- ・今後は、J A と連携し、地域や産地で推進していきたいと考えている。

9 これから国際水準G A P の取得を目指す農業者へ

- ・G A P に取り組んで最も良かったことは整理整頓が進んだことである。倉庫などの施設内には大きなトラクタや機械類、小さな工具やボルト類まで、農業は機械や道具類であふれている。作物、作業の種類、使用する時期、作業動線など目的をもって配置することで、作業効率・安全性の向上や各種汚染の防止等に繋がる。
- ・これは一例であるが、G A P を導入することで経営の変化にも結びつくと考えている。

【調査者：網走農業改良普及センター遠軽支所】

<No. 8> 湧別町 S農場

1 経営概要

- ・ 経営面積 (ha) : 17ha
- ・ 作付品目と面積 (ha)

たまねぎ	秋まき小麦	ブロッコリー
10.0ha	6.9ha	0.1ha

- ・ 作業数 : 4名 (内訳) 経営主、妻、両親 (雇用労働無し)

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・ 経営の中心となっているたまねぎの販路拡大を目指してG A P 認証取得に取り組んだ。
- ・ 平成 28 年に取組を開始した。

(2) 認証を取得した時期・G A P の種類・品目

- ・ 認証取得の時期 : 平成 30 年 2 月
- ・ G A P の種類、認証品目 : J G A P (青果物)、たまねぎ

3 G A P の取組にかかった経費

項目	金額	備考
農薬保管庫	—	以前から所有
救急箱	1,000 円	100 円ショップで購入
消火器	—	以前から所有 (20 型ABC 2 本、倉庫と燃料保管庫に設置)
残留農薬分析	18,000 円	分析機関:エア・ウォーター(株)
水質分析	無料	使用水は水道水、畑地かんがい用水のため分析不要
フォークリフト免許	40,000 円	
応急手当の講習	無料	消防署で普通救命講習を受講
審査費用	103,447 円	初回審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、農場登録料 10,000 円、旅費 25,447 円
	90,121 円	維持審査 : 北海道有機認証センター 審査認証料 68,000 円、旅費 22,121 円

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成 28 年 6 月～	管理点と適合基準の読み合わせ
平成 30 年 1 月	自己点検 外部審査受審 (初回審査)、不適合項目の是正
平成 30 年 2 月	JGAP 認証取得
平成 30 年 7 月	外部審査受審 (維持審査)

5 G A P 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 GAP導入による改善効果

(1) GAPに取り組んで最も良かったと感じること

- ・ 家族全員の農作業事故防止に対する意識が向上した。

(2) GAP導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーン数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	在庫管理をすることで不良在庫がなくなった
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	整備状況の把握ができているため
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	
作業管理の改善	作業者の責任感	改善あり	改善無し	わからない	
	作業者との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	作業の場面で家族との理解が進み、整理整頓や危険防止対策に繋がっている
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	

7 GAPの取組で大変だと感じる点（下記から選択）

【データの管理（記帳、集計など）に手間がかかる】

- ・ 日中の作業が終わり、自宅で帳票類をパソコン入力するのが大変である。スマホやタブレットで管理できるアプリがあれば導入したい。

8 GAPの今後の活用方法性

- ・ GAPによる価格面のメリットを得るのは難しいため、今後は信頼される農産物を提供することによる販路の拡大と有利販売を目指していきたい。そのためには地域、産地において団体で取り組む必要があると考えている。

9 これから国際水準GAPの取得を目指す農業者へ

- ・ GAP（農業生産工程管理）の取組は、これまで当たり前に取り組んできたことを確認、再認識、改善できる良い機会である。もっとGAPの普及を進めるべきである。

【調査者：網走農業改良普及センター遠軽支所】

<No. 9> 佐呂間町 (株) はまほろ

1 経営概要

- ・ 経営面積：550ha
- ・ 作付品目と面積

秋まき小麦	二条大麦	てんさい	ばれいしょ	大豆	金時	そば
176.8ha	15.1ha	131.8ha	24.0ha	56.1ha	0.7ha	104.2ha
かぼちゃ	キャベツ	ブロッコリー	アスパラガス	飼料用 とうもろこし	牧草他	
10.5ha	4.3ha	0.7ha	1.6ha	3.3ha	20.9ha	

- ・ 作業員数：29名（正社員：17名、臨時職員：12名）

2 G A P 認証の取得状況

(1) G A P 認証取得に取り組んだ経緯

- ・ 平成19年に機械共同利用組合から法人化し、10年が経過。「農場のルール作り」や「社員の意識改革（教育）」を目的に、東京オリンピックの食材などG A Pのメリットも考え、認証取得を目指した。
- ・ 準備期間を2年設け、書類の作成や農薬保管庫などを整備した。

(2) 認証を取得した時期・G A Pの種類・品目

- ・ 認証取得の時期：平成30年7月
- ・ G A Pの種類、認証品目：J G A P（青果物・穀物）、金時・牧草以外すべての品目

3 G A Pの取組にかかった経費

項目	金額	備考
農薬保管庫	201,000円	農薬保管倉庫（D型）内に物置（毒劇物用）を設置 換気扇を後付け
消火器	200,000円	不足分を購入
残留農薬分析	25,920円	分析機関：エア・ウォーター（株）
水質分析	無料	町上水道使用（分析結果を照会）
廃棄物処理	156,556円	廃ビニールの処理など（トラック9台分）
J G A P 指導員資格	400,000円	代表取締役と社員6名が取得、札幌までの旅費を含む
応急手当の講習	無料	消防署に普通救命講習を依頼（出前）
会社看板	300,000円	入場者のルール等を記載
はかりの検定	—	500kgのはかりは毎年点検を実施

4 G A P 認証取得までのスケジュール

平成29年4月～	管理点と適合基準の読み合わせ
平成30年1月	審査会社に申し込み
4月	自己点検
6月	外部審査受審（初回審査）
7月	不適合項目の是正報告
	J G A P 認証取得
令和元年7月	外部審査受審（維持審査）

5 G A P 支援ソフトの利用有無 (無し)

6 G A P 導入による改善効果

(1) G A P に取り組んで最も良かったと感じること

- ・ 作業員全員の安全、衛生管理の意識が向上した。
- ・ 農場内禁煙（喫煙は決められた場所に限る）により作業員の健康面が配慮された。

(2) G A P 導入による経営の変化

大項目	中項目	評価			コメント
販売面の改善	販路	改善あり	改善無し	わからない	
	販売先からの信頼感	改善あり	改善無し	わからない	まだGAPが浸透していない
	売り上げ	改善あり	改善無し	わからない	
収量・品質の改善	品質	改善あり	改善無し	わからない	
	反収	改善あり	改善無し	わからない	
	クレーム数	改善あり	改善無し	わからない	
コスト面の改善	農薬購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	GAP取組前から確立
	肥料購入量・使用量	改善あり	改善無し	わからない	GAP取組前から確立
	機械の修理回数	改善あり	改善無し	わからない	GAP取組前から確立
	雇用労賃	改善あり	改善無し	わからない	GAP取組前から確立
	道具類の不良在庫	改善あり	改善無し	わからない	GAP取組前から確立
	労働時間	改善あり	改善無し	わからない	修理、点検などにより気を付けるようになった分、変化している可能性あり
作業員管理の改善	作業員の責任感	改善あり	改善無し	わからない	
	作業員との意思疎通	改善あり	改善無し	わからない	
	人材の確保	改善あり	改善無し	わからない	
労働安全	農作業事故・ヒヤリハット	改善あり	改善無し	わからない	

7 G A P の取組で大変だと感じる点 (下記から選択)

【各担当責任者の育成が難しい】

- ・ 作物と機械の両方に知識が長けた人材（経営ができる人材）の育成が難しい（5年はかかる）。

【消費者や取引業者の理解が不十分】

- ・ 自己点検と外部審査はあるが、さらに第三者の検査があれば理解と普及が進むのでは。

8 G A P の今後の活用方法

- ・ さらなる社内ルールの構築を図りたい（一気に変えるのではなく段階的に行い、社内に浸透させる）。
- ・ 国際水準GAP（ASIA GAPやGLOBAL G. A. P.）への発展を見据え、会社としてステップアップを図る。海外への輸出を意識することで、社員のモチベーション向上と新たな雇用につなげる。

9 これから国際水準GAPの取得を目指す農業者へ

- ・ 輸出や会社のルール構築（人が集まってくる環境づくり）といった、目的に合った手段として考えると、GAPの意義が高まる。

【調査者：網走農業改良普及センター遠軽支所】

(参考) 先進事例調査

- 管内・管外で先進的にGAP認証を取得した事例について、視察研修した6事例を記載した。

<先進事例1> 有限会社丸富青果（本社：置戸町）

1 会社概要

- 設立：1972年創業 従業員数：45名
- 事業内容：①農産物卸売業（たまねぎ・ばれいしょ・にんじん）
②コントラクター事業（は種～収穫までの全工程）
③契約ほ場の補助作業

2 GAP導入の経緯

- 平成14年に販売先からEUREPGAP（現在のGLOBALG.A.P.）を土台にした、日本初のGAPシステムが確立、産地へのGAP導入の要請があり、平成15年から取組開始。



GAP認証の取組を説明する佐久間専務

3 GAP認証取得までのスケジュール

- 平成15年から5年間の準備期間を経て、平成21年12月にGLOBALG.A.P.団体認証を取得。生産者は置戸、訓子府、北見の生産者4名で、品目はたまねぎ・ばれいしょ・にんじん計70haからスタート。

丸富青果の準備	生産者の準備
<ul style="list-style-type: none">団体認証グループマネージャーの育成グループマネージャーの必要な知識経験として<ul style="list-style-type: none">①GLOBALGAP検査員講習試験②GLOBALGAP審査の立会③ISO知識の習得④HACCP知識の習得⑤農業に関する実務経験グループ内の内部規定、マニュアルの策定選果場、貯蔵庫を含む全ての施設、設備のリスク評価	<ul style="list-style-type: none">農薬肥料を正しく使用するための技術習得救急救命講習作業免許、危険物免許等の取得農薬保管庫の整備、廃プラ等ゴミ処理場の設置倉庫内の整理整頓堆肥堆積場の設置焼却炉の撤去提示物による農場の『見える化』作業者の健康診断の受診

4 特徴的な取組内容

- 国内でのGLOBALG.A.P.団体認証取得の先駆けであり、農業者に理解してもらうことに大変苦労した。
- 栽培記録と在庫管理、作業日誌をクラウド上で管理できるソフトを開発し、農業者全員に使用してもらっている。パソコンや携帯からの入力が可能。

5 GAPに取り組んでメリットがあったと感じる点

- 価格への有利性はないが、取引成立が早く、流通量が多い場合の優先順位が高いなど価格の誘導性が持てる。
- 営農上の全ての書類を整理しており、必要時に迅速に対応できる。また、労働安全に対する意識向上につながっている。

6 今後の課題

- 現在は認証農業者25名、次回取組約20名、計45名に認証農家を増やしていく予定。
- 消費者は、第三者がGAPによって評価した結果が安全な証であると認識する時は必ず来る。日本の農業は先進国に追随する必要がある、豊作時には輸出もできる準備が必要。生産者も消費者もGAPの評価システムを知り、一日も早く取り組むことが未来の農業ビジネスに不可欠と考える。

<先進事例 2> 株式会社トップファームグループ（本社：佐呂間町）

1 経営概要（飼養頭数、社員数は令和元年9月時点）

- ・昭和 25 年：酪農を開始（平成 2 年に中止、平成 28 年に再開）
- ・昭和 62 年：肥育素牛（ホルスタイン種）の預託事業を開始（現在は廃止）

会社名 (創業年)	(株)トップファーム (H6~)	サロマ牛肥育センター(株) (H17~)	パシフィックファーム(株) (H19~)	(株)オックス (H27~)
主な事業 内容	交雑種の育成部門	(株)トップファームから 仕入れた牛の肥育部門	和牛の育成・肥育・繁殖部門	酪農、繁殖部門
社員数	役員4名・社員24名 アルバイト10名	役員3名・社員17名	役員3名・社員2名 アルバイト1名	役員3名・社員14名 アルバイト3名
飼養頭数	約 4,400 頭	約 3,800 頭	約 4,100 頭	約 620 頭（乳牛） 約 30 頭（肉牛）
その他	指導員資格取得社員（農場 HACCP：4名、JGAP（家畜・畜産物）：6名）			

2 G A P 導入の経緯

- ・肉牛部門 3 社で農場 HACCP 認証を受けており、J G A P 認証取得の下地が整っていた。
- ・社長のリーダーシップにより G A P 導入に取り組み、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェアの確立を目指した。
- ・消費者、バイヤーに向けた取組の発信に G A P を活用している。

3 G A P 認証取得までのスケジュール

- ・平成 15 年：「農場 HACCP」導入（農場 HACCP 宣言）
- ・平成 21 年：「農場 HACCP 認証」取得に向けた取組を開始
- ・平成 24 年：「農場 HACCP 認証農場」認証（サロマ牛肥育センター）
- ・平成 27 年：「農場 HACCP 認証農場」認証（トップファーム、パシフィックファーム）
- ・平成 29 年 8 月：肉牛部門 3 社で先行して J G A P（家畜・畜産物）取得に向けた取組を開始
- ・平成 29 年 9 月：J G A P「管理点と適合基準」（差分文書）に基づいた自己点検の実施
- ・平成 29 年 11 月：J G A P 外部審査受審（審査機関：中央畜産会）、同月認証取得

4 特徴的な取組内容

- ・すでに農場独自や農場 HACCP により取り組んでいたことが多く、システムは確立されている。
- ・朝礼・夕礼時のミーティング実施、月 1 回の HACCP 会議開催
- ・独自の牛舎ノートによる作業記録、牛パスポート（カルテ、農場内の移動記録）による個体管理
- ・薬剤使用明細の導入による社員のコスト意識向上
- ・ICTを活用した農場・労務管理（タブレット端末利用による社員、獣医師等関係者との迅速な情報共有、労務管理ソフトウェア、G A P 支援ソフトウェアの利用）
- ・手作りの社内新聞による情報の周知・共有、従業員教育への活用

- ・スマートグラスによるトラッキング（従業員が作業中に何を／どこを見ているかを分析、教育に利用）の活用を構想中。

5 GAP（農場HACCPも含める）に取り組んでメリットがあったと感じる点

- ・農場HACCP導入により、牛の事故率が低減した。
- ・バイヤーが売りやすい商品になった（消費者に対しても担保できる信頼性）。
商標「サロマ牛」（H17）、「サロマ黒牛」（H19）、「サロマ和牛」（H23）も登録している。
- ・従業員採用への応募が増加。
- ・バイヤーや関係団体の視察受入れの増加により、日常的な整理整頓やコストへの意識が向上。
- ・労働災害、事故が発生した際の全社的共有と教育訓練の実施。

6 今後の課題

- ・「持続的な農業経営」を求める流れは後戻りすることはない。GAPの取組は今後も求められる。
- ・GAPの取組を社内担当者が変わっても安定的に引き継いでいくこと。社員に指導員資格取得を促し、さらなる向上を図る。
- ・将来的に酪農部門（株式会社オックス）の農場HACCP、JGAP（家畜・畜産物）認証取得を目指す。

7 取組の様子



農場内組織図や農作業事故防止の啓発資料を掲示した本社の休憩室



薬品庫・資材保管庫

◇牛パスポート◇				
飼育場	飼育牛	飼育場	飼育牛	飼育場
3/9	33
8
9
20
21
22
4/1
16
13
13
13
13

牛パスポート

毎月発行の社内新聞

<先進事例 3> 前田農産食品株式会社（本別町）

1 会社概要

- ・ 設立：昭和 26 年、前田農産食品合資会社設立
- ・ 事業内容：農産物生産(秋まき小麦、春まき小麦、てんさい)
小麦粉の販売、ポップコーンの生産加工販売

2 G A P 導入の経緯

- ・ G A P を導入することで、農産物生産のリスク軽減を期待し、取組を始めた。

3 G A P 認証取得までのスケジュール

- ・ 平成 25 年から、従業員と一緒に施設内の整理整頓、書類作成を行い、平成 27 年に小麦、ポップコーンで G L O B A L G . A . P . を取得した。

4 特徴的な取組内容

- ・ 農薬保管庫は 4 トントラックのコンテナ（中古）を利用（当時約 8 万円で購入）。購入後、自然換気口の取付、棚や掃除用具を設置した。また、農薬管理表の看板、月別使用農薬を表示し、誰でも直感的にわかるようにしている。
- ・ 作業内容は 1 か月の予定をホワイトボードに記載しており、誰がどこのほ場で作業しているか一目でわかる。
- ・ 農作業の記録（たからもの日誌）を圃場ごとに記録し、作柄の振り返りなどに活用しており、小麦のタンパク改善など品質向上にも役立てている。
- ・ 冬場の雇用対策として、ポップコーン栽培を行い、敷地内に工場を設立して、ポップコーンの加工までを取組んでいる。
- ・ 今後は、ひまわりの種子を取引先のパン屋で加工販売してもらう計画を立てている。

5 G A P に取り組んでメリットがあったと感じる点

- ・ 施設内が整理・整頓され、作業効率が向上した。
- ・ 栽培等の記録が残ることで、今後の営農改善に利用できる。
- ・ 仕事の引継ぎがしやすくなった。持続的に農業生産ができるシステム、人材育成ができたと考えている。
- ・ 農産物販売において、他の農産物に比べ、インセンティブを持つことができたと考えている。
- ・ 従業員間のコミュニケーションが活発になった。

6 今後の課題

- ・ 加工品の販路拡大として、海外輸出の検討。



農薬の保管方法について
説明する前田氏



きれいに分別された廃棄物の
保管場所



使いやすく整理された
工具置き場

<先進事例 4> 十勝農業協同組合連合会（帯広市）～十勝型GAPの取組について～

1 十勝型GAPの目的

- ・十勝型GAPは、十勝管内の生産者・JAが統一されたGAPを足並み揃えて実施することで、食の安全安心に取り組む「十勝ブランド」をアピールするために実施している。



十勝農協連の取組について研修

2 対象者

- ・十勝管内で生産し、JAに出荷する全ての生産者、十勝管内で農産物を取り扱う全てのJA施設。

3 GAP導入の経緯

- ・平成 22 年～ GAP 推進組織として、JA ネットワーク十勝農技協の専門部会として GAP 部会を設置
- ・平成 23 年～ 十勝型GAPのチェックリスト解説書の作成
- ・平成 24 年～ 十勝型GAPチェックリスト集計システムの導入、十勝型GAP認証制度整備に向けた検討
- ・平成 25 年 十勝型GAP認証制度構築に向けたデモ審査の実施（4 JA）
- ・平成 26 年 同上（7 JA）
- ・平成 27 年 同上（6 JA）
- ・平成 28 年 同上（9 JA）
- ・平成 29 年 十勝型GAP認証制度の断念
農水省GAPガイドラインに準拠した十勝型GAPのガイドライン作成
- ・平成 31 年 十勝型GAPチェックリストに基づく自己点検の強化（できてない分の対応研修）
国際水準GAP認証取得にむけた支援
JGAP、GLOBALG.A.P.の管理点に取り組むための標準手順書作成

4 十勝型GAPの内容

- ・十勝管内 24 JA 全てが十勝型GAPに取り組んでいる。チェックリストの回収率はほぼ 100%。
- ・JA、農家によって取組に温度差はあるが、農家にGAPを理解してもらうことが最大の目的。
- ・農協連が管内全てのチェック結果を集約し、その結果に基づいて課題を設定し、GAP部会として改善活動（各種研修会、講習会の開催）を行っている。
- ・チェックリストの内容は生産物共通項目（肥料・農薬・労働安全・衛生管理・防疫対策など）と、各作物（畑作4品、露地野菜、施設野菜、そば、米、スイートコーンなど）の栽培工程ごととなっている。
- ・農薬・肥料の在庫記録や機械整備台帳などは手書きが主流だったが、生産履歴と連動させるWEBシステムを始めている。チェックリストは、35%の農家がスマホやタブレットで入力している。

- ・農産物取扱施設については、H A C C PやS Q F*といった認証規格取得を目指している（既に帯広川西のながいも選果施設、豆類選別・個包装施設においてはS Q F認証取得済）。

5 G A Pに取り組んだメリット

- ・（十勝型G A Pの場合）十勝の農家全体が取り組めるような内容を設定し、G A Pとして必要最低限の管理ができ、生産管理に関する意識が向上した。
- ・十勝全体で取り組むことで、十勝管内の農産物をアピールできること。イメージアップにつながった。
- ・ガイドライン準拠のため、認証を意識したときに次の段階に進みやすい。

6 今後の課題

- ・2020年に農水省のG A Pガイドラインが改定されるため、改定後に再度十勝型G A Pのチェックリストも見直していく。
- ・認証G A P項目に「農薬保管庫の設置」など、大規模農家では対応しにくい項目がある。全ての農家ができるわけではなく、全ての農家に認証を求めているのではない。G A Pが地域へ定着し、整理整頓や適正な在庫管理など、心がけてくれることを望んでいる。
- ・チェックリストのチェックだけで終わっている場合が多い。部会として課題を設定し改善活動を行っているが、もっと具体的な取組を進めることが必要。
- ・今後、認証団体が増えてきたときのJ A職員の育成。

* S Q F（Safe Quality Food）：

1994年にオーストラリアの政府機関によって策定された食品衛生管理システム。2003年に米国食品マーケティング協会（F M I）の所有するところとなり、F M I傘下のS Q Fインスティテュート（S Q F I）によって運営されている。S Q F規定・認証レベル2はG F S I承認スキームになっている。

＜先進事例 5＞ 永山町稲作研究会（旭川市）

1 研究会の概要

- ・永山町稲作研究会は旭川市永山町で昭和 19 年に発足した任意団体。平成 15 年に一度解散したものの、平成 28 年に再結成した。現在 24 戸＋1 法人で構成されている。

2 G A P 導入の経緯

- ・ただ漠然と農業をしているように感じ、農業の魅力を見い出したかった。
- ・オリンピック、パラリンピックでの G A P 認証農産物の食材利用という話題やもっと品質を追求したいという思いから G A P に取り組むことになった。
- ・酒造メーカーとの取引もあり、今後 G A P が求められる可能性や将来的には輸出も視野に入れ A S I A G A P を選択した。

3 G A P 認証取得までのスケジュール

- ・平成 27 年 1 名、平成 28 年 2 名が J G A P 個別認証を先行取得し、地域内で指導を行った。平成 29 年に A S I A G A P 団体認証を 26 戸で取得した。



稲作研究会の取組について調査

4 特徴的な取組内容

- ・地域の若手を中心に取り組んでいる。
- ・団体事務局を農業者が行っている。自分達で勉強し J G A P 指導員や内部監査員も取得している。
- ・トヨタの豊作計画を取り入れている。豊作計画では労働時間や経費の削減など抜本的改革を問われている。

5 G A P に取り組んでメリットがあったと感じる点

- ・納屋や農機具庫などが整理され、きれいになったことで在庫管理をしやすくなり、探し物の時間が減った。
- ・若手が取り組むことで経営改善の意識も高まり、情報交換や施肥設計などの勉強になるなど、地域の人材育成の場となっている。
- ・効率だけでなく、労働安全面での配慮が意識されるようになった。



研究会の黄木代表と楠副代表

6 今後の課題

- ・販売面でのメリットにつなげたい(家族の理解を得る材料になる)。
- ・事務局運営の負担が多いことや事務局の継承。
- ・記帳、転記が人によって困難と感じている人がいる。ソフトを使ってスマートフォンから入力し、事務局の負担をできるだけ減らす努力をしているが、紙ベースでの人もいるなど統一できていない。

<先進事例 6> 農事組合法人ヒット（愛別町）

1 経営概要

- ・平成8年に愛別町のきのこ農家8名で複数戸法人を設立した。平成9年に培養センター、包装センターを建設し、徐々に共同で事業を行う体制を整えた。当初、組合員は10戸いたが現在は5戸で運営している。従業員は正社員10名(内構成員5名)、パートや技能実習生がそれぞれ30名ほどいる。

2 G A P 導入の経緯

- ・異物混入等のクレームに対応している中で、混入が起こらないためにどうしたらよいかを調べているうちにG A Pにたどり着いた。

3 G A P 認証取得までのスケジュール

- ・平成29年より準備し、月1回、「管理点と適合基準」の読み合わせ及び現地点検を実施、G A Pへの理解を深めた。平成30年にA S I A G A Pを取得した。
- ・当初団体認証で取得したが、共同での事業も多く、個別の認証に切り替えた。取引先からの要望もあり、来年度からはG L O B A L G . A . P .に変更する。

4 特徴的な取組内容

- ・きのこの製造は、一般企業の工場的要素が強く、G A P取得前より生産工程管理の中で取り組んでいることが多く、従業員もスムーズに受け入れることができている。
- ・段ボールにロット番号を付けるなど、トレーサビリティ構築を行っている。

5 G A P に取り組んでメリットがあったと感じる点

- ・整理整頓ができたこと。
- ・価格への効果はないが、P B (プライベートブランド)での企業独自G A Pにもスムーズに対応できた。
- ・取得により取引先が増えていることはないが、新たな売り先のきっかけにはなっているかもしれない。

6 今後の課題

- ・業務日誌の書き方がわからない人への対応(チェックリスト形式を検討)。
- ・異物混入へのさらなる対応。



汚れ防止のため一番下は青いコンテナを使用



えのきの生産過程



休憩室にも掲示物を張り
実習生のために外国語に
翻訳している